

=短報=

ヤマサナエの翅胸部黒条の変異

長田 勝*・和田茂樹**

ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (SELYS) の翅胸部の第1側縫線にそった黒条は、通常、上縁まで完全につながっている(図1)。しかし、時としてこの黒条が途中で消失し(図2)，キイロサンエ *A. pryeri*(SELYS) のようにみえる個体が現れるので報告しておく。手許にある標本は以下のとおりである。

1♂, 福井県坂井郡金津町笹岡, 6. VI. 1979 長田 勝採集

1♂, 福井市合谷町, 14. V. 1989 前田 彰採集

1♂, 福井市合谷町, 20. V. 1990 和田茂樹採集

このうち、金津町笹岡産の個体は左胸部の黒条のみが消失している。このように翅胸部黒条が途中で消失した個体はキイロサンエに酷似しているので、雄の場合は尾部付属器および生殖前片の形状を、雌の場合(筆者らは、まだ黒条の消失したヤマサナエの雌をみていないが)は産卵弁の形状を検する必要がある。

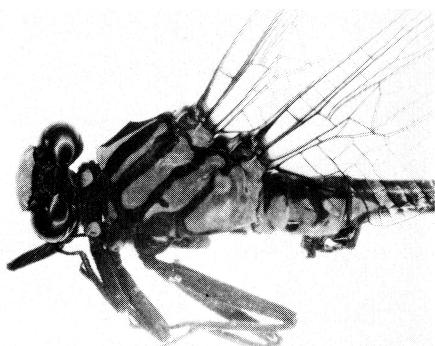


図1 通常型

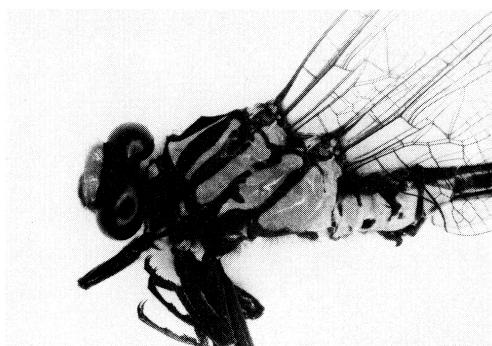


図2 第1側縫線の黒条が途中で消失した個体

* 福井市足羽上町 147 福井市立郷土自然科学博物館

** 福井市西木田 3-8-18 (明倫中学校 1年)